特定非営利活動法人　地域と協同の研究センター

第 24 回通常総会議案書【第２分冊】

日時　　2024 年 5 月 18 日（土）10：30～12：15（10：00 受付開始）
会場　　生活協同組合コープあいち生協生活文化会館４階会議室
（愛知県名古屋市千種区稲舟通１－３９）

第 1 号議案および第 2 号議案に関連する「2023 年事業別報告と 2024 年度目標」

目次

三河地域懇談会……2
岐阜地域懇談会……3
三重地域懇談会（三重のつどい）……4
尾張地域懇談会……5
研究フォーラム食と農……6
研究フォーラム環境……7
研究フォーラム職員の仕事……8
研究フォーラム地域福祉を支える市民協同……9
東海交流フォーラム……10
生協の（未来の）あり方研究会……11
総会記念シンポジウムと公開セミナー……12
協同組合間協同……13
全国の協同組合等研究組織との連携……15
研究テーマ：多文化社会と協同組合……16
研究テーマ：食と農……17
難民食料支援（共催の取り組み）……18
「くらしと平和・憲法を守る実行委員会」への参加（共催の取り組み）……19
会員が参加する自主研究会　友愛・協同セミナー……20
会員が参加する自主研究会　サードセクター研究会……21
共同購入マイスターコース……22
組合員理事ゼミナール……23
協同の未来塾……24
金城学院大学「協同組合論」：大学での協同組合等に関する授業の開講……25
名城大学「ボランティア入門」大学での協同組合等に関する授業の開講……26
三重大学：大学での協同組合等に関する授業の開講……27
協同組合による、大学での学びと進路選択支援……28
市民が協働を学ぶ講座（飛騨）……29
第６期研究奨励助成……30
増刊「地域と協同」の発行と研究成果報告・研究誌……31
「地域と協同の研究センター」としての発信力の強化と組織づくり……34

三河地域懇談会

１．2023 年度の目標

２０１４年度から「私たちのくらしと介護～地域で粋な老い支度を」をテーマに活動を続けて１０年目を迎えます。今までの活動の積み重ねを大切に、よりいっそう粋な老い支度をすすめるために、①くらしと平和、②地域と地域の食文化（次世代へ伝え継ぎたい三河の伝統食）、③食と健康を軸にした協同の取り組み、④環境問題　⑤南海トラフ地震等の災害への備え　⑥難民食料支援・多文化共生をテーマに、学び交流する活動に取り組み、「豊橋生協会館へ寄らまいかん」を開催します。地域を歩き、語り合い、協同・会員の輪を広げます。

２．2023 年度のまとめ

世話人会を 11 回開催し、情報共有をしながら活動・企画の検討、準備、運営にあたりました。

４年振り、４回目の「豊橋生協会館へ寄らまいかん」を７月１日（土）開催しました。参加者はオンラインも含めて 100 名余でした。主な内容は、メイントーク、ランチ・ティータイム、キッズクッキング、交流広場です。研究に取り組んできた煮味噌の家康めしランチも大好評、地元のメーカー７社の参加もあり交流がすすみました。メイントークのテーマは「平和・食・健康」、市田真澄さん（デイリーファーム社長）・野田清衛さん（のだみそ社長）・中嶋 芳夫さん（市民農園/農業）の三名が今の思いを熱く語られました。午後は、みかわ市民生協創立のころのお話と東京空襲のお話を高橋正さん（みかわ市民生協元理事長）に伺いました。笑顔あふれる一日となりました。生協の原点についても考え合う機会となりました。

9 月 23 日（土）、７名の参加で、防災ずきんをつくる会を開催しました。念願の防災ずきんをつくることができて参加者みんな感激しました。講師は三河地域懇談会世話人の田所登代子さんです。あらためて「イツモ防災」について学ぶことができ、枕元セット、非常持出袋等を準備することの重要性を確認しました。

10 月 28 日（土）生協総合研究所の第 32 回全国研究集会「世界的な食料危機の中で、持続可能で健康的な食のあり方と生協の役割を考える」にオンライン参加しました。世話人会では、食への生協らしい取り組みや、気候変動の中での環境問題への取り組みについて意見交換を行い、地域の伝統食を次代に引き継ぐ活動の大切さを確信しました。2 月には　生協総合研究所の公開研究会「改定議論から考える協同組合のアイデンティティ」にオンライン参加しました。

11 月 24 日（金）12 名の参加で、中嶋芳夫さんの畑見学・恵実生産者グループとの交流会を開催しました。大根や白ネギを畑から収穫する体験もでき、現地で話を聞き、交流することの大切さを実感しました。有機栽培の苦労や、6 月の水害被害の実態についてもうかがう機会となりました。

東海交流フォーラムでは、中嶋さんの協同ファーム構想についてあらためて話を聞き、今後の具体化に向けての相談が始まりました。「煮味噌」を昼食の試食として、紹介することができました。

３．2024 年度の目標

２０１４年度から「地域で粋な老い支度を」をテーマに活動を続けて 11 年目を迎えます。今までの活動の積み重ねを大切に、よりいっそう粋な老い支度をすすめるために、①くらしと平和、②次世代へ伝え継ぎたい三河地域の食文化、③食・農・健康を軸にした地域の協同のさまざまな取り組み、④環境問題　⑤南海トラフ地震等の災害への備え　⑥難民食料支援・多文化共生をテーマに、学び交流する活動に取り組み、居場所づくりの一環として「〇〇へ寄らまいかん」を開催します。地域を歩き、語り合い、協同・会員の輪を広げます。

岐阜地域懇談会

１．2023 年度の目標

中野方まちづくりについて、継続して学びます。世話人会メンバーの、農泊を行っておられる亀井さんから中野方の課題・めざすことについて考えあいます。「ささえあいの家」の清水さんの地域を訪問して、交流を深めます。コロナ禍、実現できなかった「ひなたぼっこ」職員集会に参加し、「心の声を聴く」活動を学びます。22 年にできなかった、報告書第 4 集の発行をめざします。

２．2023 年度のまとめ

５月１８日に、一年間の取り組みついて話し合いを行いました。今まで、中山間地の住民のささえあいについて学んできたが、「ささえあいの家（岐阜県各務原市八木山）」の活動を見て、都市のささえあいについても学びたい。都市のささえあいについて、掘り下げて考えたい。核になる人の力によって、できる事に差が出る。核になる人⇒キーパーソンが、周りを巻き込んで大きな動きをつくる。地域懇談会は、キーパーソンに出会う場だった。いままで、キーパーソンはその地で自然発生的に生まれてきたようだけれど、いま、生まれてくることを待っている余裕がない状況になっている。これからは、キーパーソンを意識的に作らなければいけない。キーパーソンをどう作り出すのか、この懇談会で探ることを、今年のテーマにしました。

８月２１日、ささえあいの家を訪問して、住民同士がささえあうことでうまれる、気持ちの良いくらし、仕事を定年退職した後も地域のため、人のために働き続けておられる姿に率直に感動しました。そして、人から感謝されるということが、生きがいや、やりがいにつながることが、よくわかりました。

９月２９日、原勝行さんから提案があった美しい自然と清らかな水に恵まれた、岐阜県郡上市の里山にあるネオナチュラル母袋（もたい）有機農場を見学しました。過疎の地にあって、休耕地を活かし､地元の農家の方が参加し､旧街道なども整備しながらここで都市と農村の交流をメインに、交流イベントの企画やサウナ小屋 （もう少しで利用可）など、まだ発展途上ですが、夢のある開発が進められています。へちまを栽培する地元の農家にとって、米を作るよりも収入が高くなるなどの、地域の活性につながっているようです。私達は恵那の中野方のような、地元の自治組織や NPO 法人などによる街づくりの実践を見てきました。今回は私企業でありながら、公共的な地域活性につながる運営の可能性を見ることができました。これからも関わることができればと思います。

２０２４年２月２４日、第２０回東海交流フォーラムでは、男性が活躍する地域のささえあいの様子、どんな気持ちで活動に参加されているのかを東海の皆さんに知って頂くことにしました。『活動している皆さんの思いをそれぞれ聞くことができてとても良かった』との嬉しい感想を頂きました。

フォーラムの振り返りの話し合いの中で、「岐阜を知ろう、つながろう」というテーマで進めてきた地域懇談会の活動から得たものを、世話人会のメンバーが、それぞれの地域で活かして、いろいろな取り組みが始まっていることが再確認できました。

３．2024 年度の目標

コロナのために中断した、岐阜でのミニフォーラムを再開します。内容は、八木山ささえあいの家の男性からの報告です。新城の「やなマルシェ」を実際に見学して、お話を聞く計画を立てます。地域懇談会で得たものを種に、始まった世話人会メンバーそれぞれの活動を文章にして、報告集第４集の発行を目指します。今まで訪問した、各地域を再訪問して進化した姿を学びます。

三重地域懇談会（三重のつどい）

1．2023 年度の目標

多文化共生＝人権・個人の尊厳が尊重されるつながりづくりは引き続きテーマに据え、身近な場で実践されているささえあい、つながりづくりを学びます。

2．2023 年度のまとめ

2020 年 12 月イロンゴ訪問以来 2 年 7 か月ぶりに、三重県内の取り組み二つをフィールドワークとして学びました。

①仲組ふれあいサロン（松阪市飯南町）

②一般社団法人みんにこ主催「第 3 回みんにこのつどい」（四日市市室山町・笹川地区）

ふたつのフィールドワークには、三重地域懇談会（三重のつどい）世話人とコープみえ員理事、役職員が参加。それぞれの地域の特徴を活かす「つながりの場」がそこにありました。

1）仲組ふれあいサロン（松阪市飯南町）

7 月 3 日（月）午後、世話人、コープみえ理事と事務局、計 6 名で訪問。

コープみえ理事で研究センター理事でもある中川よし子さんが、地域の皆さんと一緒につながりあう場として開催。会場である「下郷集落センター」には写真や作品展示などがされ、地域の子ども会や様々なサークル、高齢者サロンなどが協同して活用。地域に場がある、集まることが楽しみにできる､体の不自由な方も参加者のサポートがあり参加できる､みんなで合唱して一体感がある、ひとりひとりの得意技（二胡演奏や野菜栽培、加工品づくり等）をみんなで尊重し合う関係性がある等、都市部とは違う特徴・強みがありました。

2）一般社団法人みんにこ主催「第 3 回みんにこのつどい」

8 月 21 日（月）午後、世話人、コープみえ理事・役職員 7 名で訪問。

同法人は四日市市笹川地区全体の幅広い交流による地域の関係性づくりを目的に活動中。当日は「第 3 回みんにこのつどい」として「みんにこサポーターズ子ども食堂」が開催されていた。

SDGs のビデオを見たり、高校生がリーダーとなってみんなでゲームをしたり、参加者同士の交流があった。会場である「日本長老教会四日市キリスト教会」では毎月第 1 土曜、フードパントリーが実施され、貧困者の救済だけでなく「誰でも物資を持ち帰られる人々の交流＝つながりの場」となっていた。教会では英会話教室が開かれ、30 年前来日したペルー夫婦の経験を聴く場にもなっていた。地域の多様な住民が楽しく交流ができ、地域貢献や多文化共生・多世代交流意識を高め合う場となっていた。

3）第 20 回東海交流フォーラムでは、岐阜県・愛知県の会員と、「『多文化・多様な共生社会』をめざして」をテーマとして、上記二か所の実践を共有し、一人ひとりの尊厳を大切にして、私たちが暮らす地域で多世代・海外ルーツ住民も一緒になって、何らか行動を起こすことの大切さを話し合った。仲組ふれあいサロン・中川さん、（一社）みんにこ・西村忠祐さん参加・報告。

3．2024 年度の目標

ふたつのフィールドワークと第 20 回東海交流フォーラムでの話し合いをもとに、人と人がつながる場についいて研究し、三重県での協力・協同の広がりづくりにつなげる。

尾張地域懇談会

１．2023 年度の目標

○「協同が生まれる地域社会づくり」を共通テーマとして、尾張地域の会員の訪問・調査を継続します。
○尾張地域懇談会（世話人会）とコープあいちなど団体会員との関わりをつよめます。

２．2023 年度のまとめ

○3 月 28 日、5 月 19 日、7 月 14 日、8 月 23 日、10 月 11 日、11 月 6 日、2024 年 1 月 15 日、２月 19 日、３月 18 日に開催しました。
○昨年に引き続き「難民食料支援」（NPO 名古屋難民支援室）及び、多文化社会と協同組合懇談会による豊田市保見団地（ケアセンターほみ）の見学について報告を受け、関わり方を話し合いました。
・2024 年 2 月 4 日(日)に保見団地見学に参加しました（オンライン参加含む）。

○3 月 28 日：コープあいちくらしたすけあいの会（運営委員）の皆さんと懇談、5～8 月では懇談内容を振り返り、第 20 回東海交流フォーラム実行委員会の報告をん元に進め方を話し合いました。
・10 月 11 日：春日井くらしたすけあいの会の活動を動画で学びました。
・11 月 6 日：コープあいちくらしたすけあいの会（千種・名東）運営委員に参加いただき、くらしたすけあいの会の現状と課題、生協組合員の参加（つながり）との関係などについて話し合いました。
・12 月 4 日：第 20 回東海交流フォーラムの実行委員会に、尾張地域懇談会より「くらし助け合い」の交流を提案することとし、分散会に参加依頼する団体を相談しました。
・2024 年 1 月 15 日：2 月 24 日第 20 回東海交流フォーラムの参加と準備を話し合いました。
・2 月 19 日：2 月 4 日保見団地見学の結果を報告・交流しました。第 24 回東海交流フォーラム分参加の進行を話し合いました。
・2 月 24 日第 20 回東海交流フォーラムでは、分散会「くらしのたすけあいと協同」を担当しました。くらしたすけあいの会（愛知・岐阜）、おたがいさまひだ・八木山地区社協（ささえあいの家）などの取り組みを交流しました。

○2024 年３月 18 日の懇談会では、第 20 回東海交流フォーラム分散会の振り返りを行い、生活協同組合の組合員のつながりがたすけあいの母体であること、地域の状況に応じてたすけあいの進め方が異なること、たすけあいを進める地域にサロンや拠点があることの重要性などを話し合い、まとめを「くらしたすけあいの会」に報告すること、継続して取り組むことを話し合いました。
・瀬戸の NPO エム・トゥ・エムが 20 周年となり、歴史をまとめていることが報告されました。

３．2024 年度の目標

○「協同が生まれる地域社会づくり」をテーマとして、尾張地域の会員の活動から学びます。
○尾張地域懇談会（世話人会）とコープあいちなど団体会員との関わりをつよめます。

研究フォーラム食と農

1．2023 年度の目標

2 月 18 日（土）にオアシス 21 オーガニックファーマーズ朝市を訪問、村長の吉野隆子さんにご案内頂いて出店されている生産者のお話を伺うことができました。持続可能な農と食のあり方、地域の農業、地域のくらしとの連携、様々な課題を実践事例から学び、地域と協同の研究センターでの食と農の議論から解決への道筋を考え合います。

2．2023 年度のまとめ

1）4 月 26 日、公開セミナー「市民農園へのチャレンジから「循環型農業の可能性」を考える」を開催

お話し　　株式会社スリーシー代表　近藤鉄次氏
　　オオブユニティ株式会社環境ソリューション事業部
　　リサイクルプラント横根工場　係長　山口貴大氏

参加人数　　23 名（報告者除く）

近藤さんから健康で生き生き働ける場として農業（市民農園）にチャレンジし、休耕地を畑に、生協の店舗等の生ごみでバイオマス発電、残渣を堆肥にして栽培に生かす「循環型農業」について学び、環境面での農業の価値や意味を考え合いました。

2）5 月総会記念シンポジウムは「持続可能な食・農・地域コミュニティづくり」をテーマに開催

日本の食は、輸入食料への依存が進み、食料自給率の低下、農業生産者も高齢化し急速に減少しています。世界で絶対的貧困、戦争や紛争、大規模災害が続くなか、食料資源は「戦略物資」となり、ロシアのウクライナ侵攻を発端にした貿易分断や、円安進行等を背景に、食物原料・穀物飼料が高騰し、肥料原料の確保の見通しもたっていません。

持続可能な食料・農業・地域コミュニティをどのようにめざすことができるのか、生産者と消費者、それぞれと協同組合の役割を考え合いました。

問題提起：持続可能な食・農・地域コミュニティのために
　　大原興太郎さん（研究センター理事　研究フォーラム食と農）

報告：協同組合・生産者・市民の実践から
　　●倉元陽平さん（JA あいち中央会　営農・くらし支援部）
　　●市田真澄さん（株式会社デイリーファーム）動画
　　●吉野隆子さん（オーガニックファーマーズ名古屋　朝市村村長）

3）第 20 回東海交流フォーラムでは、三河地域懇談会から「『市民がつくる農業（産消提携）』を語り合う」場が提起されました。食べる消費者とつくる生産者は相対（あいたい）する関係ではなく、消費者であり生産者でもある。市民が協同農園という仕組みで、農に関わる。その試みを話し合いました。

3．2024 年度の目標

食と農は重要なテーマであり、農業農協問題研究所、とうかい食農健サポートクラブ等とつながって、新しい関係づくりを探求します。

研究フォーラム環境

1．2023 年度の目標

公開フォーラムをステップに、環境に配慮した協同実践を学ぶ場づくりを引き続き検討しながら、世話人をひろげます。

2．2023 年度のまとめ

1）研究フォーラム環境世話人会は研究センター会員が環境に関連する「協同実践」を学び、考え合う場をどうつくるか相談しています。コロナ問題下でなかなか場づくりが進みませんでしたが、2022 年から世話人会活動を再開し、4 月 26 日（土）「市民農園へのチャレンジから“循環型農業の可能性”を考える」公開フォーラムを開催しました※食と農参照。

2）8 月 31 日（木）、一社 循環資源再生利用ネットワークが開催した SDGs「夏季セミナー 2023：プラスチック問題と私たちの未来」に世話人が参加し、資源循環を考える上では避けて通れない、プラスチック問題、今後のプラスチックの資源循環のあり方を学びました。

講演テーマ：「プラスチック資源循環を巡る社会の変化、それぞれに求められること 」

講師：枝廣淳子 氏（大学院大学至善館教授、 （株）未来創造部代表取締役社長、 幸せ経済社会研究所所長 、有限会社イーズ代表取締役

事例報告

（株）折兼 営業企画部 広報 SDGs 課 課長 服部 貞典氏（名古屋市）

地球にも使い手にもやさしく環境にやさしい素材に機能性をプラスしたエコパッケージ、植物原料 100 %からつくられた生分解性食品容器について

日本生活協同組合連合会ブランド戦略本部 サステナビリティ戦略室

サステナビリティ戦略担当　設楽 良昌 氏

コープ商品のプラスチック使用量の削減の取組み、容器包装への再生プラスチック・植物由来プラスチックを使用した商品の拡大について

3）2024 年 2 月、愛知県がすすめる「あいちサーキュラーエコノミー推進プラン」と廃食用油利活用プロジェクトチームの取り組みを学びました。

4）2024 年 3 月、スリーシー近藤さんの市民農園見学を計画しましたが、端境期であったことなどから、5 月に延期としました。

3．2024 年の目標

近藤さんによる市民農園試行を学び循環型農業のあり方を探求します。また、サーキュラーエコノミーの実践を学びます。

研究フォーラム職員の仕事

1．2023 年度の目標

東海三生協（大学生協や商品供給事業委託会社スタッフ含む）が主体となり、研究センター主催で学びと気づきの 3 つの事業は、2023 年度も開催されます。

3 つの場を実施しながら、旧名古屋勤労市民（めいきん）生協が創設されて 55 年の歩み（実践）と大切にしたこと（精神）を軸に、目前の問題と将来の想定される問題を考え合う場づくりをすすめ、「職員の役割・仕事とは何か」を追求します。

2．2023 年度のまとめ

1）2022 年度に４回開催した「組合員意識・利用分析等に基づく公開セミナー」で、愛知・岐阜・三重の生協組合員の暮らしの変化から生協の課題を考えました。そこでは「生協（組合員）の価値を実現する」「組合員の高齢化に対応する」「地域との連携力を高める」課題が共通して出され、組合員に接する生協職員の立場から、これからの生協の役割や課題を考える場を検討実施しました。

公開セミナー：生活協同組合の課題から職員の役割を考える

11 月 25 日（土）／名古屋都市センター（金山南ビル 14 階）第１、第２会議室）

報告①：電話注文センターに寄せられる組合員の声から

谷口　功　さん（東海コープ事業連合事務管理部電話注文センター）

報告②：地域との連携

後藤裕輔さん（生活協同組合コープあいち尾張東ブロック長）

報告③：地域共生社会の実現と生協の役割と期待について考える

寺崎由郎さん（みえ医療福祉生活協同組合）

報告④：研究報告書を読んで生協職員像をどのように目指すか

齋藤優子さん(日本生活協同組合連合会管理本部人材開発部／コープこうべから出向中)

2）国際協同組合同盟（ICA）は 2021 年 12 月、1995 年 ICA 全体総会で採択された「協同組合のアイデンティティに関する ICA 声明」の見直し議論を世界各国に呼びかけました。日本では日本協同組合連携機構（JCA）が各協同組合連合会の議論を反映し、ともに検討を重ね、2024 年 3 月 26 日 JCA 総会において提案を議決し、ICA に提案書が提出されます。その JCA 提案のひとつは、「『協同組合をともに担う者としての職員』として次の原則を追加する。『職員は、組合員とともに協同組合を担う。職員は、協同について学び、事業を支え、組合員と協同組合、組合員どうしを結びつける。』」としています。組合員のくらしを守る取り組みに関与する職員の位置づけを明確にし、職員のディーセント・ワーク（人間らしい仕事）の確保が協同組合の発展に欠かせないという考え方を示しました。

3．2024 年の目標

「協同組合における職員の位置づけ」について、実践的に考え合い、試行し合う場を研究センター会員と一緒に検討してゆきます。

研究フォーラム地域福祉を支える市民協同

１．2023 年度の目標

これまでの成果と、課題もふまえながら、また 6 月 3、4 日の協同組合学会の内容も学びながら、あらためて愛知、岐阜、三重のそれぞれの活動（八木山の「ささえあいの家」、「ガーデン大山田」、瀬戸の「NPO エム・トゥ・エム（M　to　M」）を比較しながら「プラットホームとして、新しい人とのつながりや価値を創造(向井)」しつつ、学び得たことを公開研究フォーラムとか、またはブックレットのような報告書などで、広く社会に知らせることを目指します。

多文化共生に加えて多世代共生という課題は、「地域丸ごと共生社会」の大きな要素でもあり、この問題も、さらに地域福祉をささえる市民協同の対象となる可能性があります。

２．2023 年度のまとめ

4 月 13 日に三重県桑名市のガーデン大山田の見学を実施しました。地域福祉の研究フォーラムのメンバーと向井清史氏（名古屋市立大学名誉教授、研究センター常任理事）も参加され、代表の平手マリ子さんとみえ福祉医療生協の寺崎由郎さんから、活動の理念「地域丸ごと健康で明るい街づくり」の実践、子ども食堂から始まった、様々な活動の広がりが報告されました。ただ集まるだけでなく、つながりのなかで新しい関係が生まれているということでした。この活動と、これまでの中心課題である、八木山の「ささえあいの家」との比較などが課題となっています。

8 月後半に事務局研修として飛騨市を訪問、生協と行政の連携が進み、旧村落のそれぞれに個性のある活動が生まれています。山の村地区への貨客混載による買い物支援、地区ごとのサロンや、ＪＡの空き店舗を利用した物品活動など。新城市のやなマルシェの活動との比較できる活動が展開されていました。

地域をどうとらえるか、地域づくりの課題について、地域福祉をベースにして比較検討をさらに深めたいと思います。

第 20 回東海交流フォーラムに向けて「協同が生まれる街づくりをめざして」というテーマに研究フォーラムとしてどのようなアプローチが可能かを論議しました。その論議も踏まえ、「地域づくり」についての実践に学びながら、公開の研究会ないし、第 2 弾のブックレットを検討します。

３．2024 年度の目標

これまでの議論の蓄積を踏まえ、整理し内容を深める意味で、広く研究センター会員と共に学ぶ企画を検討します。23 年度ではブックレットあるいは研究フォーラムの開催について課題としてきましたが、それを受けての企画検討を進めます。

東海交流フォーラム

１．2023 年度の目標

4 月、第 1 回実行委員会を開催して、7 月、9 月、12 月で開催準備をすすめます。

２．2023 年度のまとめ

・2023 年 4 月第 1 回実行委員会 : 第 19 回東海交流フォーラムの振り返り、第 20 回開催日程を相談。
・2023 年 7 月第２会実行委員会：第 20 回東海交流フォーラムを、「協同のあるまちづくり」をテーマに第 20 回記念企画として開催することを決定。参加しやすい会場として、金山駅近く、名古屋駅近く、昭和区吹上ホール、本山生協生活文化会館を比較検討しました。
・2023 年 9 月第 3 回実行委員会：地域懇談会での話し合い準備状況を交流しました。
記念企画として、午前・昼・午後の開催とすること、
これまでの東海交流フォーラムや地域の団体とのつながりがわかるリーフレットを作成すること、
会場は生協生活文化会館とすること、
ICA で「協同組合のアイデンティティ」の見直し検討が始まっていることから、東海交流フォーラムでもテーマにすること、等を確認しました。
・20 回の歩みや参加団体のつながりがわかる「第 20 回東海交流フォーラムリーフレット」を作成し、9 月に発行。各地域懇談会での意見を反映して観戦させ、会員に届けました。
・2023 年 12 月第 4 回実行委員会：企画として、分散会の担当、昼食交流、午後のワークショップなど進め方を確認し、開催案内を作成しました。
・2024 年 2 月 24 日（土）第 20 回東海交流フォーラムを開催しました。
124 名が参加し、「多文化」「くらしのたすけあい」「市民が支える農」「地域共生の力」のテーマで事例に学び、全体会で交流しました。昼食時には生産者・メーカーとの交流があり、全体会では少人数のグループワークで「成果を持ち寄る話し合い」が行われ、JA ひだからは地域の拠点づくりについて、日本協同組合連携機構からは ICA が進める「協同組合のアイデンティティ」についての提言のポイントが紹介されました。

３．2024 年度の目標

〇第 20 回東海交流フォーラムの報告は鶏頭６号で予定します。
〇第 21 回東海交流フォーラム（2025 年 2 月 22 日（土））を準備します。

生協の（未来の）あり方研究会

１．2023 年度の目標

2023 年度、3 回（①6 月下旬から 7 月上旬、②11 月中旬から下旬、③24 年 2 月中旬から下旬）の研究会を実施し、2024 年 4 月原稿入稿。2024 年 7 月の発刊を目指します。

２．2023 年度のまとめ

未来を拓く協同の社会システム（2013 年／日本経済評論社）、協同による社会デザイン（2019 年／日本経済評論社）につづく、第３次共著発刊に向けて研究会を 3 回開催しました。

第３次共著は、「格差・貧困、環境・エネルギー、コロナ禍などに照らし、社会の分裂・対立を克服する市民協働は可能か」「再帰的社会における生協運営の転換過程に関連して協同組合のアイデンティティの改定検討の意義や協働における生協の新しい役割／新しい公共性の担い手への模索」「東海の生協での協働への模索」などのテーマを検討しています。

＜研究会メンバー＞

小木曽洋司氏（座長、中京大学教授、研究センター常任理事）
朝倉　美江氏（金城学院大学教授、研究センター理事）
近藤　充代氏（日本福祉大学元教授・非常勤講師、研究センター理事）
加賀美太記氏（阪南大学流通学部教授）
兼子　厚之氏（研究センター元理事）
向井　　忍氏（地域と協同の研究センター専務理事）
多村　幸司氏（コープぎふ常勤理事、研究センター常任理事）
渡邉　　秀氏（コープあいち執行役員、研究センター常任理事）
妹尾　成幸氏（コープみえ組織活動推進部部長、研究センター常任理事）

１）第 83 回研究会（8 月 4 日開催）

○　第３次共著で取り上げるテーマや骨子について（各位より）
○　執筆方法について（小木曽先生より）

２）第 84 回研究会（12 月 1 日開催）

①　報告と議論
○　兼子厚之氏
○　加賀美太記氏
②　第三次共著の章立て検討

３）第 85 回研究会（2024 年 3 月 1 日開催）

①　報告と議論
朝倉美江氏、近藤充代氏、妹尾成幸氏
②　第三次共著の構成と 2024 年度研究活動のすすめ方について

３．2024 年度の目標

東海三生協理事長との懇談を相談・具体化しながら、第三次共著発刊準備をすすめます。

総会記念シンポジウムと公開セミナー

１．2023 年度の目標

○「2040 年における社会の構造的な変化」に向けて、2030 年までにどのような準備が必要かを考えるセミナー（「公開研究会の継続編」「シリーズ 2030」）を開催します。
○「協同組合のアイデンティティ」見直しに関する意見をまとめるセミナーを開催します。
○「大規模自然災害に備える」第４回公開セミナー（３県連携会議）を開催します。

２．2023 年度度のまとめ

○5 月 20 日総会企画は「持続可能な食・農・地域コミュニティづくり」をテーマに開催しました。
●大原興太郎さん（研究センター　食と農フォーラム）
●倉元陽平さん（JA あいち中央会　営農・くらし支援部）
●市田真澄さん（株式会社デイリーファーム）動画
●吉野隆子さん（オーガニックファーマーズ名古屋　朝市村村長）
○総会企画に続き、2024 年 3 月 23 日（土）に「容器包装と資源循環」をテーマに開催しました。（株）折兼が取り組む、プラスティックに替わる「バガス素材（サトウキビや竹などを原料)」の普及・活用・再生の具体的な道筋を考えました。
○「2040 年における社会の構造的な変化」に向けて 2030 年までの準備を考える第一回「地方分権・地方自治について学ぶ研究会（2023 年 3 月 19 日（日))」の内容を「鶏頭（４号)」で紹介しました。第 33 次地方制度調査会では『人口減少が長期的に進行する中、「新型コロナ後」「大災害時」「デジタル化」などで国と自治体と住民の関係が取り上げられました。
第二回公開研究会として、2024 年 3 月 9 日（土）に「重層的支援体制整備事業」について國信綾希さん（長久手市・厚生労働省より出向中）を講師に学習会を開催しました。
○6 月の日本協同組合学会・春季研究集会に続き「生協事業や職員の立場からの話し合い」として「地域の期待と生協の現状から考える」9 月 2 日(土)「協同組合のアイデンティティ」公開セミナーを開催しました。第 7 原則「地域コミュニティへの貢献」の意味が深められました。
○昨年の「組合員意識と利用分析等に基づく公開研究会」に続き、11 月 25 日(土)「生協の役割から生協職員の課題を考える」公開セミナーを開催しました。協同組合のアイデンティティ見直しにおいて、職員の役割の位置付けが注目されていることを踏まえ、テーマ設定しました。
○「大規模自然災害に備える」課題は、愛知県で災害時の中間支援組織づくり・モデル事業が始まりました。内閣府が「災害ケースマネジメント実施の手引き」を作成しましたが、「愛知版・災害ケースマネジメントの手引き」も作成されました。

３．2024 年度の目標

○５月総会企画は、労働者協同組合法を取り上げます。
○公開セミナーを開催します。

協同組合間協同

１．2023 年度の目標

2023 デー記念行事の開催を通して協同組合ネットあいちへの参加組織をひろげます。愛知県、および岐阜県、三重県での協同組合間協同に協力し、各県連携組織とのつながりを重視します。

２．2023 年度のまとめ

１）岐阜県

岐阜県協同組合間提携推進協議会として「幹事・事務局合同会議」を 2 回開催。地域貢献活動について、「協同組合を考える集い」の開催について、「協同組合に関する学習会」の開催について、岐阜大学の講義への出講について、令和 5 年 1 月～10 月の活動実績について、協議会の令和 6 年度の取り組みについてなどを協議。

地域貢献活動は 4 月 15 日（土）の岐阜公園・金華山登山清掃は雨天より中止としましたが、10 月 21 日（土）は高山市古い町並み及び宮川周辺の清掃を参加者 23 名で実施。

「協同組合を考える集い」を 2023 年 7 月 7 日(金)　ぎふメディアコスモス　みんなのホール　にて 114 名参加で開催。

事例報告「全国の協同組合間連携の事例について」（JCA 報告）

講演「そのとき、日本人は何人養える？　食料安全保障から考える社会のしくみ」

講師:農業研究者　篠原 信　氏

岐阜大学農業政策学授業に 7 月 4 日（火）出講し、全岐阜県生協連から「協同組合の始まりと岐阜県生協」を、JA 岐阜中央会「協同組合の成り立ちとＪＡの役割」を講義

協同組合に関する学習会は年 9 月 19 日（水）農協教育研修所にて、「地産地消の促進による SDGs への取り組み強化」講義／講師:NPO 法人泉京（せんと）・垂井　神田 浩史 氏、グループワーク「協同組合として SDGs に連携して取り組めること」を開催。参加者は 27 名でした。

２）三重県

○　フードバンクや、みんなの食堂（子どもの食堂）への支援

○　再生可能エネルギーを最大限に導入できる電力システムの改革や原発に頼らないエネルギー政策を求めていく取り組み

○　環境保全活動として三重県漁業協同組合連合会主催の「県内一斉海浜清掃」や、明和町主催の「津波防災の森づくり」へ会員生協役職員で参加

○　三重県が事務局を担う委員会への参加と、関係部局との関係が広がっています。また、諸団体から「消費者懇談会」への参加依頼が増えています

○　三重大学「協同組合論」を支援し協同組合への理解を広げるため、三重大学人文学部での特殊講義「協同組合論」（全 15 講義／年）を 10 月 2 日～2024 年 1 月 29 日まで、毎週月曜日を基本に実施※詳細 27 頁参照。

○　12 月 5 日、三重県生活協同組合連合会・JA 経営研究会共催で役職員向け学習会を開催。「市民協同によるまちづくり～東海から発信する新しい市民社会への途」（2022 年地域と協同の研究センター発刊）を題材に、名古屋市立大学向井清史名誉教授による基調講演、やなマルシェ加藤久美子氏の実践報告に学びました。

３）愛知県

2022 年 7 月に発足した「愛知の協同組合間協同連絡会（協同組合ネットあいち)」の会合を継続開催。2023 年 3 月から「東海労働金庫」と「こくみん共済 co-op」が加わり、7 月 19 日には 2023 デー記念行事 in 愛知を JA 愛知研修所（愛知県岡崎市）で開催しました。テーマは「未来を担う組合員・職員で互いの協同組合を語り合う！」。90 名以上の職員・コープあいち理事が参加し、グループ交流で意見交換しました。

10 月 14 日は第 5 回地域共生フォーラム「みんなで幸せに暮らせるまちづくり～協同組合らしいケアを考える～（主催ＪＣＡ)」の愛知サテライト会場をコープあいち生協生活文化会館で開催。北医療生活協同組合、生活協同組合コープあいち、南医療生活協同組合、愛知ワーカーズコレクティブ連合会、東海労働金庫、生活クラブ生活協同組合、地域と協同の研究センターから 21 名が参加し、3 つのグループに分かれて意見交換しました。同フォーラム実行委員には協同組合ネットあいち幹事の藤井恵里氏（愛知ワーカーズコレクティブ連合会代表）が参加しています。

金城学院大「協同組合論」（2023 年度後期）では、協同組合間協同のつながりから、全国大学生協東海ブロック、東海労働金庫の登壇が実現しました。

生活協同組合コープあいちと金城学院大学生協共催で学生向けにベジチェックや美容フェス、北医療生活協同組合と生活協同組合コープあいち名古屋北ブロックの定期的な協同実践協議などがすすみました。

これらの取り組みを通して、10 月から生活クラブ生活協同組合が加わり、幹事組織は以下に広がりました。

各組織から 2024 年重点計画を報告し、共通する問題と課題をすり合わせ、緩やかな関係性での相乗りを検討。また、ブックレット「つながって働く、生きる、地域をつくる～みんなの幸せを協同で」（協同ではたらくネットワークあいち発行）の共有しました。

2023 デー記念行事 in 愛知をベースに、職員の学びの場にもなるよう、2024 デー記念行事の持ち方検討をすすめています。

＜協同組合ネットあいち幹事＞

ＪＡ愛知中央会、コープあいち、全国大学生協連東海ブロック、南医療生協、北医療生協、ワーカーズコープ東海事業本部、愛知ワーカーズ・コレクティブ連合会、東海労働金庫、こくみん共済 co-op 愛知推進本部、生活クラブ生活協同組合、NPO 法人地域と協同の研究センター

３．2024 年の目標

岐阜県、三重県の取り組み情報を集めつつ、愛知県内の協同組合間協同を推進します。

東海・東南海トラフ地震発災に備えた日常の協同組合間協同体制を準備します。

国連は 2025 年を第二回国際協同組合年（IYC）と定め、日本国内でも 2025 国際協同組合年（IYC2025）の進め方についての検討が始まり、具体的には IYC2025 全国実行委員会（仮称）の立ち上げを準備しています。この動きに呼応した活動計画を検討し、実施してゆきます。

全国の協同組合等研究組織との連携

１．2023 年度の目標

○「協同組合等研究組織交流会」及び、協同組合等研究組織（全国８団体）の情報交換に参加します。
○第４回研究組織交流会での、地域と協同の研究センターの報告「地域の持続可能性への協同組合の関わり方～協同組合が「市民協同の母体」となる途」について、JA 兵庫中央会・コープこうべによる中堅職員合同研修「協同組合塾」（10 月 5 日）での講師依頼があり、参加します。

２．2023 年度のまとめ

○協同組合等研究組織の自主交流会は、4 月、7 月、8 月（2 回）、10 月、2024 年 1 月に開催しました。
（参加は、日本協同組合連携機構、農林中金総合研究所、生協総合研究所、非営利協同総合研究所いのちと暮らし、協同総合研究所、市民セクター政策機構、くらしと協同の研究所、地域と協同の研究センター）

・各団体の研究テーマの他、今年は「協同組合のアイデンティティ」見直しに関して、各研究組織の検討状況を交流しています。GSEF（社会連帯経済フォーラム）への参加報告も受けました。

・8 月には、JCA（日本協同組合連携機構）によるワークショップからの意見取りまとめについて報告を受け､9 月 8 日日本協同組合学会特別シンポジウムに向けて､意見交換の場を 2 回開催しました。
・地域と協同の研究センターからは、日本協同組合学会春季研究集会（名古屋開催）の内容と共に、9 月 2 日の公開フォーラム等での論点を紹介しました。

・10 月、2024 年 1 月には、ICA による「協同組合のアイデンティティ」検討のスケジュールと日本の協同組合の意見や、2025 国際協同組合年への取り組みなど、2024 年計画に関わる情報交換を行いました。

○JA 兵庫中央会・コープこうべによる中堅職員合同研修「協同組合塾」（10 月 5 日）の講師を担当しました（向井専務理事）。

３．2024 年度の目標

○「協同組合等研究組織交流会」に引き続き参加します。ICA による「協同組合のアイデンティティ」検討に関わる日本での話し合いや、2025 国際協同組合年への取り組み、2024 年計画に関わる情報交換を進めます。

研究テーマ：多文化社会と協同組合

１．2023 年度の目標

多様性が尊重される協同の価値が広がるよう、研究、活動を通じて社会における協同組合の役割を促進していく。

２．2023 年度のまとめ

多文化社会と協同組合懇談会：懇談会を隔月で開催。研究センター助成制度を活用し 7 回のワークショップ、保見団地フィールドワーク（２回）を行い報告書にまとめた。懇談会メンバーで協同組合学会春大会、秋大会へ参加。ＪＣＡ常務理事伊藤治郎さんから（オンライン）2008 年日本生協連国際活動委員会報告書に基づき、当時の生協が「くらしと地域のグローバル化」の経験から学んだ。

愛知県立大学との連携セミナー：11 月にサテライトキャンパスで「多文化社会と災害」（日英同時通訳付）、2 月にオンラインで「大規模災害の備えから強制移住における多文化自治を考える」を開催。

協同組合学会：協同組合学会理事。日本協同組合学会春大会に座長、秋大会に個別報告「生協における外国人雇用アンケート調査結果に基づいて」を行った。ジェンダーと協同組合研究部会への参加、第３回に「日本社会に暮らす移民女性の現状～支援の事例から」報告。経済学・経営学部会への参加。

移民政策学会：冬季大会（12 月）「危機的状況下の支援活動にみる外国人の社会参画へのプロセス−愛知県の支援活動の取り組みから」として協同的事例と取組みを報告。

ウクライナ避難者支援：あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワークで避難者受入自治体訪問、個別支援、週 1 回のオンラインミーティング、月１回の情報共有会議。11 月大交流会相談会の専門家コーディネート。研究センターニュースへの毎月の寄稿。

アフガニスタン退避者支援：退避者主体の団体「アフガンあいち・東海」設立支援。退避者による協同的な事業準備をサポート。個別支援。月１の全国情報交換会にオンライン出席。市民、名古屋市、名古屋大学、名古屋難民支援室、名古屋モスクとの連携。コープあいち雇用サポート。

難民食料支援：名古屋難民支援室、アジアボランティアネットワーク東海と共に難民食料支援の活動（毎月のミーティングへの参加、食料支援フードドライブ、発送作業の運営、広報）

執筆：協同組合研究誌「にじ」No.683/「協同の発見」No.365/協同組合研究 Vol.113/「自治体がひらく日本の移民政策」明石書店/ 愛知県立大学多文化共生研究所雑誌『共生の文化研究』18 号

講演･イベント･委託事業：①JICA 中部 2023 年度多文化共生パートナー育成講座（研究センター後援）3 回連続ワークショップ・フィールドワークの主催、運営。②2 月人間の安全保障フォーラム主催シンポジウム（コープあいち共催）で外国人テーマで報告。③ 3 月名古屋市千種区役所の多文化共生事業受託。千種区民 20 名とネパール・ベトナム講師 6 名と調理イベントを開催。

３．2024 年度の目標

協同組合の価値と定義、原則に照らして、次のことを目標としていきます。

協同組合の組織内（雇用）、地域への関わりに関する調査研究を継続します。東海地域に暮らす海外出身・海外ルーツの住民の協同の取り組みを促進、サポートします。協同組合学会の活動（理事、部会活動）に積極的に参加することで、協同の取り組みの促進、懇談会、調査研究へ反映していきます。懇談会は２ヶ月に１回を継続開催していきます。市民、地域、行政、教育機関（小中高校・大学）、協同組合組織、その他の機関（企業、メディア）との関係性を豊かにしていくことで課題を解決していくことを意識して推進していきます。

研究テーマ：食と農

１．2023 年度の目標

気候変動､新型コロナウィルス禍､ウクライナ危機による食と農の危機は深刻さを増しています。元々自給率 38%の日本に於いては命に関わる問題でもあります｡イスラエルとパレスチナ自治区ガザ地区を実効支配するイスラム組織ハマスとの戦闘ではガザで多くの市民の犠牲者が出ています。こうした、世界情勢の不安定さも危機を増幅させています。

持続可能な農と食のあり方、地域の農業、地域のくらしとの連携、様々な課題を実践事例から学び、地域と協同の研究センターでの食と農の議論から解決への道筋を考え合います。

２．2023 年度のまとめ

2022 年、6/17，9/22，12/6 の 3 回、研究フォーラム“食と農”世話人会を開催しました。世話人会で大原興太郎先生から全体提起をして頂きました

1.耕作放棄地を回復させるのには自然農法を取り込んでもよいのでは 2.新自由主義的なあり方ではないオルタナティブなあり方の追求 3.地域と一体的な、自立自給的な方向への運動 4.メニューありきで無い材料ありきの食育 5.人生のあり方トータルの中でエコやエネルギーの節約を考えていく

・ 2 月 18 日(土)実践事例の学びとして「オアシス 21 オーガニックファーマーズ朝市村」を見学
村長の吉野さんの案内で、出店されている各生産者の皆さんのお話を聞くことができました。新規就農の支援から有機農家を育て、販売先を拡げ消費者とより強い結びつきをつくり地域をつなぐ取組みは素晴らしいと感じました。

・ 5 月 20 日(土)記念シンポジウム「持続可能な食・農・地域コミュニティのために」
コーディネーター・大原興太郎さん（研究センター　食と農フォーラム）
報告者　協同組合・生産者・市民の実践から
・倉元陽平さん（JA あいち中央会　営農・くらし支援部）
・市田真澄さん（株式会社デイリーファーム）
・吉野隆子さん（オーガニックファーマーズ名古屋　朝市村村長）
深刻化する農と食の危機の中、持続可能な食と農のために私たちにできることは何なのかを JA、養鶏農家、ファーマーズマーケットの実践者の立場から報告され真剣な話し合いができました。
近代社会のある種無機的な循環、モノとカネの循環と考えるのか、その背後にいる人を想定して支え合う関係と捉えるのかで様相は異なってきます。モノとカネの循環だけでないあり方、そもそも私たちは自然と人との循環の中で生きています｡既に食料はお金で買える時代が終わりつつある中、新たな社会をつくりだす必要があります。それには協同組合の役割がとても大きい。小さなより集まりの単位での互助精神の復活と大きくなった組織としての社会への発信力の大きさを共に追求する柔軟な対応力(レジリエンス)が求められている時代ではないだろうか。（大原先生）

・ 2024 年 1 月 16 日(火) フードビジネスのインフラ/食品包装資材等を扱う商社の株式会社折兼様を訪問し懇談（参加者；橋本吉広、向井忍、若原章博、堤英祐)。食そのものにも影響を与えている食品容器、プラスチック問題としても重要、検討を深めていきます。→バガス容器の生分解性実験へ

３．2024 年度の目標

研究フォーラム“食と農”の取組みを通して、課題ははっきりしてきましたが、気候変動、社会構造そのものなど解決が難しい課題ばかりです。今後地域での課題解決に向けて実践事例から学ぶことや、引続き議論を深めていきたいと考えています。

難民食料支援（共催の取り組み）

１．2023 年度の目標

これまでの経験を活かし 2023 年度も引き続き、３つの団体（名古屋難民支援室・アジア・ボランティア・ネットワーク東海・地域と協同の研究センター）で難民食料支援に取り組みます。学び語り合う会（支援物資集め）を３回、食料支援品仕分け・発送を２回、多くの市民に呼び掛けて開催します。

２．2023 年度のまとめ

学び語り合う会と食料支援のためのオンライン会議を、NPO 法人名古屋難民支援室とアジア・ボランティア・ネットワーク東海と共に三者で継続して定期的に開催しました。協力団体であるコープあいちは、ホームページや LINE での組合員への案内を担っています。

学び語り合う会は７回目と８回目の２回開催しました。

学び語り合う会⑦は 6 月 17 日 (土）に開催し、オンライン７名、豊橋会場６名、本山会場 40 名の参加（難民の方 16 名含む）でした。学び語り合う会⑧は 11 月 4 日（土）に開催し、オンライン８名、豊橋会場９名、本山会場 42 名（難民の方 13 名含む）の参加でした。それぞれテーマは「日本（東海地域）にくらす難民の方々とともに学び語り合う」とし難民の方のお話をうかがい、共に考え、語り合うことを大切にしました。

2021 年４月に始まった支援活動は、学び語り合う会の開催とフードドライブ活動を通して支援の意義の共有が広がり、メッセージカードのやりとりから難民の方との交流が深まりました。顔の見える関係性の大切さを実感するに至りました。緊急食料支援物資の仕分け・発送は、7 月 15 日（土）は 31 名、12 月 3 日（日）は 36 名の参加で取り組み、購入したハラール食品もお送りすることができ、喜んでいただきました。大学生や若い世代の参加も多く、シニア世代の交流が深まっています。食料支援に参加するボランティアグループもあり、食品受け取りや送り状の記入など支援の内容が広がりました。

３．2024 年度の目標

これまでの経験を活かし 2024 年度も引き続き、３つの団体（名古屋難民支援室・アジア・ボランティア・ネットワーク東海・地域と協同の研究センター）で難民食料支援に取り組みます。学び語り合う会（支援物資集め）を３回、食料支援品仕分け・発送を２回、多くの市民に呼び掛けて開催します。

一方的な支援ではなく、「難民と共に」ということを大事に、引き続き活動に取り組みます。

３月 30 日には学び語り合う会⑨を開催し、名古屋高裁で勝訴し難民認定されたロヒンギャ難民の方のお話を聞き、日本（東海地域）にくらす難民の方々とともに学び語り合いました。協力団体であるコープあいちの理事・組合員６名の参加がありました。今後も参加者が自らできることを考え交流し合うこと、参加者を広げることをめざします。

「くらしと平和・憲法を守る実行委員会」への参加 （共催の取り組み）

１．2023 年度の目標

〇コープあいち・コープあいち労働組合・コープあいち９条の会・同 OB９条の会などで構成する「くらしと平和・憲法を守る実行委員会」に参加し、平和と日本国憲法を守る学習会等を共同で開催します。

２．2023 年度のまとめ

〇今年は、2023 年 3 月 12 日に開催した「あいちの平和な未来創造」の企画をスタートに、平和について継続して学習・交流できる場をつくることを目標に、毎月の「くらしと平和・憲法を守る実行委員会」に参加し、相談してきました。
〇3 月 12 日の「あいちの平和な未来創造」のつながりで平和への取り組みが広がっています。三河地域懇談会「よらまいかん」では 3 月 12 日に参加した、デイリーファーム・野田味噌さんを招いて平和の思いを語る場が持たれました。ウクライナから愛知・岐阜・三重に避難した方を支援する活動には地域と協同の研究センターも協力しています。「OB９条の会」では、8 月にコープあいち職員（ヒロシマ・ナガサキ行動への参加者）と懇談の場を持ちました。
〇実行委員会では、大村義則さん（愛知県原水爆被災者の会（愛友会）副理事長・原水爆禁止愛知県協議会（愛知県原水協）代表理事）と懇談し、平和（戦争）をめぐる状況について意見交換しました。
〇学習・交流会を開催しました。
日程：２０２４年１月２７日（土）午後　13～15 時
会場：生協生活文化会館４階・会議室
企画：「愛知の平和な未来の創造」学習交流会
講師：大村義則さん（愛知県原水爆被災者の会（愛友会）副理事長・原水爆禁止愛知県協議会（愛知県原水協）代表理事）
〇ICA「協同組合のアインデンティティ」見直しに対し、JCA、日本生活連、地域と協同の研究センターから共通して「平和・非暴力」を位置付けることが提案されました。

３．2024 年度の目標

〇実行委員会に参加して、進めます。

会員が参加する自主研究会　　友愛・協同セミナー

１．2023 年度の目標

○「友愛・協同セミナー」を２カ月に１回のペースで開催します
○2023 年 6 月に開催する日本協同組合学会・春季研究大会で、成果を報告します。

２．2023 年度のまとめ

○2023 年 6 月日本協同組合学会・春季研究集会（第一部）で報告。
　・友愛協同セミナーをふまえて　　（橋本吉広）
○第 14 回 7 月 29 日(土)
　・日本協同組合学会春季研究集会での報告から　　（橋本吉広）
　・回転型貯蓄信用講ＲＯＳＣＡｓについて　　（文書：熊崎辰広）
　　無尽会社（「相互扶助の経済」からの抜き書き）
○第 15 回 9 月 30 日(土)
　・「協同組合のアイデンティティ」見直しの論点について
　　意見交換
○第 16 回 11 月 11 日（土）
　GSEF（世界社会的連帯経済フォーラム）の 10 年の歩みと今後
　　鈴木岳（生協総合研究所・研究員・編集長）
　ICA（国際協同組合連盟）の検討状況
　　前田健喜（日本協同組合連携機構）オンライン報告
○第 17 回 1 月 20 日(土)
　・「協同組合のアイデンティティ」見直しの論点について
　・契約講について（情報提供）　　（熊崎辰広）
　・「（愛知の）協同の歴史」中世から近世　　（向井　忍）
○第 18 回 3 月 30 日(土)
　・「協同組合のアイデンティティ」見直しへの意見について
　・近況報告（ハンサリム医療福祉生協での活動）　　（ジョ・ユソン）
　・「（愛知の）協同の歴史」近代へ　　（向井　忍）

３．2024 年度の目標

○「友愛・協同セミナー」を２カ月に１回のペースで開催します。
○定例会の他、公開企画も開催します。
　テーマ（案）「2025 国際協同組合年に向けて「協同」の源流と今、そして未来を探る」

会員が参加する自主研究会　　サードセクター研究会

１．2023 年度の目標

○日本協同組合学会経済学・経営学部会を兼ねて、２カ月に１回のペースで開催します。
・4 月 23 日（日）、日本協同組合学会・春季研究大会第一部の事前研究会として開催
○2023 年 6 月に開催する日本協同組合学会・春季研究大会で、成果を報告します。

２．2023 年度のまとめ

○サードセクター研究会・経済学経営学研究部会では、日本協同組合学会第 41 回春季研究集会の開催のために臨時会議を 4 月 7 日(金)に実施しました。大会終了後の 6 月 25 日(土)、第 25 回部会(サードセクター研究会と併用)を開催し、第 41 回春季大会での議論を振り返り今後の研究と議論の方向性について討議しました。そこでは「コミュニティとアソシエーション」「多様性と協同」「経済合理性と協同組合のアプローチ」について議論をどう発展させていくか議論され、「コミュニティ」でも時と場所、国によって異なる点をどうみるか、外国人とのフラットの関係、「人々の共通する願い」、ハイエクの知識の経済性の視点での議論の必要性などの意見が出されました。
○2023 年 6 月日本協同組合学会・春季研究集会第一部で、サードセクター研究会を踏まえ、小野澤康晴さん（農林中金総研）が報告しました。
○第 24 回 4 月 7 日（金）
・春季研究集会について
○第 24 回 4 月 23 日（日）
・日本協同組合学会春季研究集会：事前研究会として開催
○第 25 回 6 月 25 日（日）
・春季研究集会の振り返り
○第 26 回 8 月 20 日（日）
・工業生産における循環経済の取り組みと使用者との関係
　～包装資材の再生産可能材料の使用とリサイクルでの可能性～（若原章博会員）
○第 27 回 10 月 22 日（日）
・経済学の見直しと協同組合への示唆（小野澤晴康：農林中金総研）
○第 28 回 12 月 17 日（日）
・「ポスト・ケインズ型福祉国家におけるサードセクター再論」
　向井清史（名古屋市立大学名誉教授）
○第 29 回 2024 年 2 月 18 日（日）
・「実証主義会計批判」
　新谷司（日本福祉大学教授）

３．2024 年度の目標

○日本協同組合学会経済学・経営学部会を兼ねて、２カ月に１回のペースで開催します。
○2025 国際協同組合年、ICA「協同組合のアイデンティティ」検討等を踏まえ、協同組合の認知・周知を図ることを位置付けます。

共同購入事業マイスターコース

１．2023 年度の目標

引き続き、３生協の企画委員の皆さんと調整し、協同の学びの場を開催していけるようにしていきます。

２．2023 年度のまとめ

今期は、コロナが５類に変更されたこともあり、すべてリアルで開催されました。各地域でのコロナの感染状況などにより、当日欠席の方も若干ありましたが、受講者が一堂に会しての研修となりました。コロナ前のように、受講者もそれぞれの考え方や取り組みなど具体的な交流ができるようになりました。また、各単元の終了時間も企画委員からの要望を受け 30 分短縮されました。

今期の修了者はコープぎふ５名、コープあいち１３名、コープみえ８名、（株）スマイルサービスみえ１名、トランコム DS（株）３名、（株）アシスト２名、合計３２名です。（育休の取得などで修了できなかった受講者が２名ありました）企画委員は、コープみえ妹尾成幸さんを座長に各生協から出していただき合計８名で各単元の持ち方の検討や運営をすすめていただきました。

第 1 回　第１単元「協同の価値と地域担当の仕事」　プロローグ＆基本・伝統・継承
　　日時　8 月 5 日（土）10：00～17：30

第 2 回　第２単元「生協運動の使命と価値を考える！」
　　日時　8 月 26 日（土）10：00～17：30

第 3 回　第３単元「人とコトをつなぐ仕事づくり」～「コミュニケーションと行動」
　　日時　9 月 16 日（土）10：00～17：30

第 4 回　第４単元「自身で考える仕事づくり＆心ある行動…ホスピタリティを学ぶ」
　　日時　10 月 21 日（土）10：00～17：30

第 5 回　第５単元「一人ひとりの組合員のくらしと向き合う活動」
　　日時　12 月 2 日（土）10：00～17：30

第 6 回　第６単元「モノづくりの心を学び合い、くらしと向き合う」
　　日時　2024 年 2 月 3 日（土）10：00～17：30

第 7 回　第７単元「消費者主権の協同を起点に社会を考えよう！」・修了式
　　日時　2024 年 3 月 2 日（土）10：00～17：30

●受講（修了）者の感想（修了式での受講者のスピーチから）

・仕事のあり方を見つめ直すきっかけになった。日頃、数字に追われ、自分では組合員と向き合ってきたつもりだったが、本当にちゃんと向き合って来られたか、生産者の方の情報を伝えきれているかなど考えさせられた。これからも組合員さんとのコミュニケーションを大切にしていきたい。

・有意義な時間だった。生協の歴史や組合員の声、生産者の声を聴くことができた。６年目でも知らないことはまだ多い。グループワークでは意見交流ができ、今後の仕事に生かしていきたい意見も多くあった。参加してみて自分の知らない生協のことを知ることができ、生協に興味を持つことができた。コミュニケーションを大切にして、期待を裏切らないようにしていきたい。

・全職員に受けてほしい研修だった。組合員の困りごとに向き合い、応えていくという、その一歩が大切ということが分かった。

３．2024 年度の目標

理事会で議論し、2024 年度から現在のコースを引き継ぎ、対象を生協職員全体に広げ、名称を「生協職員マイスターコース」として開講します。

組合員理事ゼミナール

１．2023 年度の目標

第 8 期二年目（後半期）のカリキュラムで開催します。

組合員理事ゼミナールの参加主体者である三生協が 2023 年総会以降、2022 年のふたつの協議で浮かび上がった改革課題を検討する場を継続的に開催して、2024 年度のステップアップを目指します。

２．2023 年度のまとめ

2024 年 2 月 16 日、第 10 回・修了式を実施、2022 年 6 月組合員理事に就任した 17 名のゼミナール修了を認定しました。

2023 年度は第 8 期二年目として通算 6 回目を 9 月 8 日から再開しました。

今年は講師として、三生協理事長に協力いただき、第 6 回はコープあいち森理事長：理事としての政策提案を磨きあう「共同購入・宅配事業」、第 7 回はコープみえ鈴木理事長：理事としての政策提案を磨き合う「コミュニティへの関与」で受講者 17 名が学び、グループワークで生協の使命と社会的な価値、そしてそれらをすすめる組合員理事の役割を考え合いました。第 8 回はコープぎふ大坪理事長より「参加の場のあり方～コープぎふの実践」をお話いだき、「情報が届かない人、不安な人、社会的弱者」との関係性をつくる場として考え合いました。

組合員理事には日常的に仕事を持つ理事や男性も加わるようになり、世話人会で協議し組合員理事ゼミナールでの学びのアプローチを少しずつ改善しながら進めました。

第 6 回：第 6 単元「理事としての政策提案を磨き合う A：共同購入・宅配事業」
　　講　　師　　コープあいち　森　政広理事長／開催日時 9 月 8 日（金）

第 7 回：第 7 単元「理事としての政策提案を磨き合う B：コミュニティへの関与
　　講　　師　　コープみえ　鈴木稔彦理事長／開催日時 10 月 27 日（金）

第 8 回：第 8 単元「参加の場のデザイン、組合員の願いをかなえる協同組織（参加）のあり方」
　　講　　師　　コープぎふ　大坪光樹理事長／12 月 21 日（木）

第 9 回：第 9 単元「組合員自治と運営参加、協同活動を支えるサーバント・リーダーシップを学ぶ」
　　講　　師　　兼子厚之氏／2024 年 1 月 12 日（金）

第 10 回・修了回：第 10 単元「シチズン・シップも学び合い、生協人、市民としての生き方を考え合い、その学びを育み合う」・修了式
　　講　　師　　中川雄一郎氏（明治大学名誉教授）／2024 年 2 月 16 日（金）
　　ゲスト報告　　加藤真奈美さん（コープあいち元理事）
　　大村洋子さん（コープみえ元理事）

３．2024 年度の目標

第 8 期（2022 年度・2023 年度）修了者からの同ゼミナールの評価と改善提案をベースに、第 9 期ゼミナールを改善し、開講します。

協同の未来塾

1．2023 年度の目標

第 8 期（2022 年度）の企画・推進委員会ふりかえりから一日の進行改善をすすめ、第 9 期を開講します。

2．2023 年度のまとめ

2024 年 3 月 7 日、第 10 回・修了式を実施し、20 名の修了を認定しました。

2023 年度・第 9 期は 6 月 30 日（金）、受講者 20 名で第 1 回を開催。10 月には 4 年ぶりに、コープこうべ協同学苑での開催が実現しました。

また、理事会では 2024 年度以降の持ち方を報告確認し、協同の未来塾企画・推進委員会で改善の具体化を検討してきました。

＜第 9 期のカリキュラム＞

第 1 回：開講式、第１単元「協同組合史」／6 月 30 日（金）
　講　　師　　杉本 貴志氏（関西大学商学部教授）

第 2 回：第２単元「協同組合論その１」／8 月 3 日（木）
　講　　師　　兼子　厚之氏

第 3 回：第２単元「協同組合論その２」「協同組合の哲学」／9 月 1 日（金）
　講　　師　　兼子　厚之氏

第 4 回：第 3 単元「社会関係資本としての生協」／9 月 21 日（木）
　講　　師　　小木曽洋司氏（中京大学現代社会学部教授）

第 5 回：第 4 単元「資本主義経済システムと非営利・協同セクター」と各生協のルーツに学ぶ／10 月 7 日（土）～8 日（日）
　講　　師　　向井　清史氏（名古屋市立大学名誉教授）

第 6 回：第５単元「地域福祉型生協への展望」／11 月 11 日（土）
　講　　師　　朝倉美江氏（金城学院大学人間科学部教授）

第 7 回：第 6 単元「消費者の権利確立」と生協・消費者運動への期待／11 月 30 日（木）
　講　　師　近藤充代氏（日本福祉大学経済学部元教授、現同大学非常勤講師）

第 8 回：第７単元「非営利・協同セクターの事業構築論ｂ～非営利組織のマーケティング論」／2024 年 1 月 25 日（木）
　講　　師　　加賀美太記氏（阪南大学流通学部教授）

第 9 回：第７単元「非営利・協同セクターの事業構築論ａ」／2 月 10 日（土）
　講　　師　　兼子　厚之氏

第 10 回：第８単元「協同組合人の思いと未来へのロマン・修了式」／3 月 7 日（木）
　講師・サブテーマを企画・推進委員会で検討中

3．12-3 月の目標

2024 年度の持ち方を第 2 回理事会報告に基づき、大学生協を含めた 4 生協による企画・推進委員会で協議・具体化し、第 10 期を開講します。

金城学院大学「協同組合論」: 大学での協同組合等に関する授業の開講

1．2023 年度の目標

2019 年に開講し、2023 年度で 5 年目。地域と協同の研究センターとつながりのある「地域での協同活動実践者」を登壇者として拡げ、大学生の間にソーシャルウーマンへの一歩を踏み出す後押しをすすめます。

2．2023 年度のまとめ

2024 年 1 月 18 日、第 15 回目の授業を終了しました。

履修学生 48 名で 9 月 21 日、第 1 回を開催。授業とフィールドワーク（10 月）を実施しました。

授業では地域と協同の研究センターとつながりのある「地域での協同活動実践者」が講師となり、学生は協同して地域に関与する協同組織の実践にふれ、もう一つの働き方・ソーシャルウーマンへの一歩を見つけあってきました。

大学生の就職活動は 3 年生から徐々に始まり、3 年次には進路選択がほぼ確定している状態。ソーシャルウーマンの路を選ぶ前段階で、協同組合・協同組織を学び、選択肢の幅を広げてほしいという願いから、全国でも貴重な大学の正式カリキュラムに登録された協同組合論（人間科学部コミュニティ福祉学科）。2019 年、開講し 2020 年～2022 年は新型コロナウイルス感染症問題を考慮しながら授業を継続しました。東海地域で学ぶ学生を地域と協同の研究センターのつながりがささえられた一つの実践となっています。

愛知県の協同組合間協同のつながりから、全国大学生協東海ブロック、東海労働金庫（金城学院大学卒業者が講師）の登壇が実現しました。

09 月 21 日	ガイダンス・大学生協	外村順一氏（金城学院大学生協専務理事）
09 月 28 日	協同組合の理念と歴史	八木憲一郎氏（元コープあいち副理事長）
10 月 05 日	食の安全と健康	松本博之氏（東海コープ事業連合執行役員）
10 月 12 日	食べ物と農	市田眞澄氏（デイリーファーム社長）
10 月 26 日	食料と農業協同組合	神谷尚吾氏（JA 愛知中央会営農・くらし支援部）
		加藤久美子氏（ＪＡあいち女性協議会・会長／ＪＡ愛知東）
11 月 02 日	おたがいさま	コープあいちくらし・たすけあいの会のみなさん
11 月 09 日	子どもの居場所	杉崎伊津子氏（わいわい子ども食堂・名古屋市北区）
11 月 16 日	第１回から第７回をふりかえってグループワーク	
		内藤穂波氏（Café わたぼうし・名古屋市昭和区）
11 月 23 日	平和・災害と協同組合	小出来捺氏（全国大学生協連東海ブロック学生事務局）
		伴　有真氏（全国大学生協連東海ブロック学生事務局）
11 月 30 日	協同組合と金融	八田 佳奈氏（東海労働金庫）
12 月 07 日	協同して働ける社会	藤井恵里氏（ワーカーズコレクティブ愛知代表）
12 月 14 日	地域まるごと健康づくり	久野浩司氏（みえ医療福祉生協・地域活動推進課）
12 月 21 日	壁のない社会めざして	上江州恵子氏（高齢者生協・ケアセンターほみ）
01 月 11 日	地域のくらしと協同組合	加藤久美子氏（やなマルシェ・新城市）
		松原　滋氏（地域複合サロン・飛騨市）
01 月 18 日	まとめ（発表）	（グループワーク・発表）

3．2024 年度の目標

2024 年度は開講されません。

名城大学「ボランティア入門」大学での協同組合等に関する授業の開講

１．2023 年度の目標

〇2023 年授業（前期・後期）を開講します。
〇参考図書として「市民協働によるまちづくり」を活用します。

２．2023 年度のまとめ

〇「人口減少社会（多文化社会への移行)」を基調テーマとして開講し、前期（法学部）267 名、後期（人間学部）166 名が受講しています。
　後期シラバスは以下のとおりです。

１．	9 月 19 日：ガイダンス。「人口減少社会」とはなにか	難民食料支援
２．	9 月 26 日：「人口減少社会」で期待される市民/ボランティア活動	NPO 難民支援室・JUNTOS
３．	10 月 03 日：人口集中地の「空洞化」とボランティア	春日井くらしたすけあいの会
４．	10 月 10 日：高齢化が急速に進む近郊住宅地とボランティア	八木山地区社協
５．	10 月１７日：「子どもの居場所」とボランティア	わいわい子ども食堂
６．	10 月２４日：「まちの居場所」とボランティア	Café わたぼうし
７．	10 月 31 日：専門職の力とボランティア	いなぶ健康アカデミー
８．	11 月 07 日：中山間地域の協働とボランティア	やなマルシェ・飛騨サロン
９．	11 月 14 日：巨大災害時の被災・避難とボランティア	原発事故による避難
10．	11 月 21 日：災害体験の中から、人は何を学ぶのか	津波被災と避難（鶴島）
11．	11 月 28 日：多文化社会とボランティア	ケアセンターほみ・海外ボランティア
12．	12 月 05 日：「ボランティア」への挑戦	学習支援 NPO ポトスの部屋
13．	12 月 12 日：市民活動（ボランティア活動）を支える	難民食料支援まとめ
14．	12 月 19 日：「多文化社会」と私たち	多文化を生きる・受講者の発表
15．	12 月 26 日：市民（ボランティア）が拓く未来	受講者の発表

〇「市民協働のまちづくり」は参考文献として紹介しました（前・後期あわせて１０数冊)。
〇ボランティア入門」では、難民食料支援ボランティアの参加を呼びかけ、前・後期あわせて約 30 名が学習会や発送作業に参加、大半の受講者が食料品やメッセージを持ち寄りました。

３．2024 年度の目標

〇2024 年度　前期（法学部）履修 323 名、後期（人間学部）で開講します。

三重大学：大学での協同組合等に関する授業の開講

１．2023 年度の目標

〇2023 年度も「協同組合と現代社会」2024 年 1 月 22 日（月）を担当します。

２．2023 年度のまとめ

・三重大学人文学部「協同組合論」が、10 月 2 日（月）より開講され、2024 年 1 月 29 日の第 15 講義まで行われています。三重大学人文学部２年生～４年生の 49 人が受講登録。

・地域と協同の研究センター（向井専務理事）で、第 14 講（2024 年 1 月 22 日）「協同組合と現代社会」を担当しました。

開講日	講義テーマ	講師
10/2	イントロダクション 協同組合の仕組みと原則	三重大学リカレント教育センター教授 青木雅生様 三重大学名誉教授 石田正昭氏
10/16	協同組合の仕組みと原則	京都大学学術情報メディアセンター 研究員 石田正昭氏
10/23	生協運動の現在と未来	日本生活協同組合連合会 代表理事会長 土屋敏夫氏
10/30	大学と協同組合	三重大学生活協同組合 専務理事 竹内信也氏
11/13	消費者と協同組合	生活協同組合コープみえ 人事部人づくり推進課課長 古澤賢一氏
11/20	医療・福祉と協同組合	みえ医療福祉生活協同組合 津生協病院医療サービス室主任 大田卓氏
11/27	漁業と協同組合	三重県漁業協同組合連合会 指導部長 植地基方氏
12/4	協同組合と共済	日本コープ共済生活協同組合連合会 代表理事理事長 和田寿昭氏
12/11	金融と協同組合	三重大学人文学部 教授 野崎哲哉氏
12/18	労働者福祉と協同組合	一般社団法人三重県労働者福祉協議会 専務理事 木村敬明氏
12/25	働く人の協同	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 神奈川事業本部事務局長 豊内和寿氏
2024 年 1/9	協同組合と市民	ＮＰＯ法人市民社会研究所代表理事 四日市大学名誉教授 松井真理子氏
1/15	ＩＣＡと協同組合間協同	日本協同組合連携機構 ＣＩ・国際・研究チーム 部長 前田健喜氏
1/22	協同組合と現代社会	ＮＰＯ法人地域と協同の研究センター 専務理事 向井忍氏
1/29	協同組合の未来	三重大学リカレント教育センター 教授 青木雅生氏

３．2024 年度の目標

〇第 14 講（1 月 20 日）「協同組合と現代社会」を担当します。

協同組合による、大学での学びと進路選択支援

１．2023 年度の目標

〇2023 年度「協同組合インターンシップ」の計画にそって、支援します。
〇各大学での協同組合等に関わる授業の受講者が、社会（ボランティア）活動に参加できる機会をつくります。

２．2023 年度のまとめ

〇金城学院大学「協同組合論」では、10 月 28 日（土）に、東海コープ商品検査センターの見学会（フィールドワーク）を行い 6 名が参加しました。また、11 月 23 日（木）では、大学生協東海ブロックの学生委員より、平和や災害支援の活動を紹介しました。受講者の中では、協同組合への進路を考える学生が出ています。

〇名城大学（前期：法学部、後期：人間学部）「ボランティア入門」では、「子ども食堂」や「学習支援」など学生が参加しやすいボランティアを紹介しました。授業として「難民食料支援」に取り組み、前期は、受講者 267 名中、6 月 17 日(土)難民食料支援学び語り合う会に 6 名、食料品持参 165 名、メッセージ持参 63 名、7 月 15 日(土)食料品仕分け・発送に 6 名が参加しました。
後期は受講者 166 名中、11 月 4 日（土）難民食料支援学び語り合う会に 6 名、食料品持参 110 名、メッセージ持参 19 名、7 月 15 日(土)食料品仕分け・発送に 18 名が参加しました

３．2024 年度の目標

〇大学生協(協同組合インターンシップ)との関わりも含めて、計画を具体化します。
〇「ボランティア入門」履修生などのボランティア参加の機会をつくります。

市民が協働を学ぶ講座（飛騨）

１．2023 年度の目標

○新たな地域の経験にも学ぶ、第３期講座に着手します。
○「市民協働によるまちづくり～東海から発信する「新しい市民社会への途」を普及・活用します。

２．2023 年度のまとめ

○6 月の日本協同組合学会春季研究集会は、「市民協働によるまちづくり～東海から発信する「新しい市民社会への途」を基に企画検討し、6 月 3 日（土）第二部の事例報告、6 月 4 日（日）エクスカーションで、「市民協働によるまちづくり」に掲載された各地域の実践事例を紹介しました。
○日本協同組合学会春季研究集会及び、9 月「協同組合のアインデンティティ」公開セミナー、11 月「生協の課題から生協職員の役割を考える」公開セミナーでは、桑名市（ガーデン大山田/らいむの丘）の事例報告が行われ、愛知・岐阜・三重それぞれの経験に学ぶことができるようになりました。

○8 月後半に研究センター事務局研修として飛騨市を訪問し、河合地域のサロンを見学しました。
○11 月 20 日(月)には、新城市から JA 愛知東（やなマルシェ）など 18 名が、飛騨市（地域包括ケア課・河合地域複合サロン）を見学し、地域と協同の研究センターからも参加しました。河合地域では、サロン主催者を交えて、JA 愛知東・JA ひだ、コープあいち・コープぎふ、高山市社会福祉協議会、新城市八名地域協議会なども含めた交流が行われ、A コープ閉店跡の地域の拠点づくりなどについて話し合われました。
○12 月 5 日には、三重県生協連・三重協同組合経営研究会の共催で、向井清史先生・加藤久美子さんを講師に「市民協働のまちづくり」学習会が開かれました。
○2024 年 2 月 24 日の東海交流フォーラムでは、JA ひだより参加があり、これまでの交流も生かしながら進めている高山市（朝日）の「旧コープ店を活用した地域の拠点づくり」が報告されました。

○「市民協働によるまちづくり～東海から発信する『新しい市民社会への途』」は、研究センター会員、日本協同組合学会・春季研究集会、コープあいち（団体）、コープみえ（団体）、コープぎふ（飛騨市所等）、名城大学「ボランティア入門」、コープこうべ・JA 兵庫（協同組合塾）などで普及されています。

３．2024 年度の目標

○引き続き、東海３県での農協・生協・住民・行政が関わる協働の取り組みに学びます。
（JA ひだ、高山市（朝日）の拠点は 4 月 17 日にオープン）
○第 3 期講座の計画を準備します。

第 6 期研究奨励助成

1．2023 年度の目標

2023 年 12 月末、研究の成果が報告されます。研究報告（成果）を活用した公開研究会の具体化をすすめます。

2．2023 年度のまとめ

「会員・市民の活動や地域の活動がより豊かなものとなるよう、会員の調査・研究活動を支援する」ことを目的として、4 グループ・個人の研究活動が完了しました。

しかし、2022 年 7 月から始まった研究活動は、グループによって計画の変更や残念ながら継続不可能な状況も発生しました。

No.	申請代表者	申請テーマ	申請額 コース	研究成果状況・見込み
1	菅野　晶仁 グループ・東京都世田谷区	多文化共生と協同組合のアイデンティティ　連続プログラムを活用した研究調査	A 20 万円	2024.2 月受理
2	榑松　佐一 個人・名古屋市守山区	日常生活支援の実態と制度の課題	B 10 万円	受理
3	津坂　賢一 個人・愛知県春日井市	2030 年の生活上のテーマの変化と生協周辺事業の可能性	B 10 万円	2024.1 月受理
4	熊﨑　辰広 個人・岐阜県岐阜市	有機農業と協同組合役割	C 5 万円	2024.3 月受理
5	古田　豊彦 グループ・名古屋市港区	「協同組合のアイデンティティ」―川上の協同～水素コミュニティ・境界領域での協同のまちづくり	C 5 万円	継続不可 助成金返納

No.2 榑松　佐一氏「日常生活支援の実態と制度の課題」は報告書が提出され、榑松氏から国・愛知県への情報提供が行われました。この報告も力になり、名古屋市では、2024 年度より「生活支援型訪問介護」の報酬が 9.4％増になりました。

3．2024 年度の目標

○「第 6 期研究奨励助成報告書」を発行します。

○ 各研究報告を発表する場を具体化します。

増刊「地域と協同」の発行と研究成果報告・研究誌

１．2023 年度の目標

○「鶏頭」（地域と協同・研究誌）：年２回予定、増刊「地域と協同」（活動紹介や企画報告）年２回予定、「ブックレット」（テーマ別の小冊子）適宜を発行します。

２．2023 年度のまとめ

○「鶏頭」（地域と協同・研究誌）第４号を（12 月 20 日に）発行しました。

特集Ⅰ　会員論文（研究会・懇談会より）

■「自治」について考える」　八木憲一郎

■ブラジルの協同組合との出会い　東麻依子

■工業生産における循環経済の取り組みと使用者との関係　若原章博

―包装資材の再生産可能材料の使用とリサイクルでの可能性―

特集Ⅱ　「協同」が生まれる地域社会づくり～共同と協同、協働～

第１９回東海交流フォーラム 2023 年 2 月 11 日（土）

○「第 20 回東海交流フォーラムよびかけリーフレット」を作成し、日本の協同組合関係者による「協同組合のアイデンティティ」見直しの話し合いの状況もあわせて紹介しました。

○2022 年度に実施した全国の「生活協同組合・外国人雇用実態調査」報告書をまとめ、各生協に送付・日本協同組合学会で報告しました。

３．2024 年度の目標

○「鶏頭」（地域と協同・研究誌）第５号・第６号を発行します。

（第５号）

特集Ⅰ　協同組合のアイデンティティ

地域と協同の研究センター「協同組合のアイデンティティ」見直しへの意見

日本協同組合連携機構「協同組合のアイデンティティ」への提言

特集Ⅱ　生協の課題と生協職員の役割

１１月５日公開セミナーの報告

（東海コープ事業連合・コープあいち・みえ医療福祉生協・日本生協連の報告）

（第６号）

第 21 回東海交流フォーラム「協同のうまれるまちづくり」他

○「第 6 期研究奨励助成報告書」を発行します。

○「多文化社会と協同組合」報告書（２）を発行します。

○「大規模災害に備える」３県連携セミナー報告書を発行します。

＜参考＞

地域と協同の研究センターNEWS2023 年度掲載報告一覧

224 号 （4月）	【巻頭】組合員意識・利用調査等に基づく 2022 年公開研究会報告、ウクライナに帰国された方からメッセージが届きました！（神田すみれ：地域と協同の研究センター研究員）、情報クリップ、書籍紹介「サイレント・アース　昆虫たちの「沈黙の春」」
225 号 （5月）	【巻頭】組合員意識・利用調査等に基づく 2022 年度公開研究会に参加して（近藤充代：大学非常勤講師）、第 23 回通常総会開催のご報告、三重県桑名市のガーデン大山田を見学してきました！（研究フォーラム「地域福祉をささえる市民協同」）、ウクライナ避難民を受け入れたある企業の取り組み（神田すみれ：地域と協同の研究センター研究員）、情報クリップ、書籍紹介「世界で最初に飢えるのは日本 食の安全保障をどう守るか」
226 号 （6月）	【巻頭】持続可能な、食料、農業、地域コミュニティをめざして　市民（消費者・生産者）と協同組合の役割を考える、環境公開フォーラム　市民農園へのチャレンジから「循環型農業の可能性」を考える（研究フォーラム「環境」）、難民の人権とメンタルケア（神田すみれ：地域と協同の研究センター研究員）、情報クリップ、書籍紹介「地域主権という希望　欧州から杉並へ、恐れぬ自治体の挑戦」
227 号 （7月）	【巻頭】20230603 日本協同組合学会　第 41 回春季研究大会報告（実行委員長　安藤信雄）、日本協同組合学会春季研究大会　エクスカーション　奥三河・協同のまちづくり　見学交流の報告、地域でウクライナ避難民を受け入れる（神田すみれ：地域と協同の研究センター研究員）、情報クリップ、書籍紹介「食べものから学ぶ世界史　人も自然も壊さない経済とは」
228 号 （8月）	【巻頭】日本の労働者協同組合の発展に期待すること（松本典子：駒澤大学経済学部教授） 難民食料支援学び語り合う会⑦　支援物資発送　報告、あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワークの活動紹介とご支援のお願い（神田すみれ：地域と協同の研究センター研究員）、情報クリップ、書籍紹介「世界のなかの日米地位協定」
229 号 （9月）	【巻頭】2023 年度「協同組合のアイデンティティ」公開セミナー　討論・私たちが協同するのはなぜか、豊橋生協会館に寄らまいかん、誰もが同じように人権が保障される社会を（神田すみれ：地域と協同の研究センター研究員）、情報クリップ、書籍紹介「世界は五反田から始まった」
230 号 （10 月）	【巻頭】三河地域懇談会の「豊橋生協会館へ　寄らまいかん」の交流広場にて（高橋正：愛知大学名誉教授、地域と協同の研究センター顧問）、ささえあいの家訪問（岐阜地域懇談会）、防災ずきんをつくる会報告（三河地域懇談会）、紛争地から逃れてくる人の難民としての認定について（神田すみれ：地域と協同の研究センター研究員）、情報クリップ、書籍紹介「毒の水―PFAS 汚染の立ち向かったある弁護士の 20 年」
231 号 （11 月）	【巻頭】国連総会は、2023 年 11 月 3 日、社会開発における協同組合に関する新たな決議を採択し 2025 年を国際協同組合年として宣言するよう呼びかけました。～国際協同組合連盟（ICA）プレスリリースより紹介します～　（向井忍：地域と協同の研究センター専務理事）、田辺準也さんの語られたこと～生活協同組合運動に関わって～、㈱ネオナチュラルの、郡上大和の「母袋有機農場」を見学しました（岐阜地域懇談会）、ウクライナ避難者のための大交流会と相談会が開催されました（神田すみれ：地域と協同の研究センター研究員）、情報クリップ「「支える人を支える」まちを創る 福祉従事者がやりがいを持って働き続けることができるまちづくり条例（新城市）の意義・展望」

232 号 （12 月）	【巻頭】特定非営利活動法人地域と協同の研究センター公開セミナー「生活協同組合の課題から職員の役割を考える」、身近にある多文化で多様な共生　（妹尾成幸：三重地域懇談会　世話人）、難民食料支援学び語り合う会⑧支援物資発送報告　主催：NPO 名古屋難民支援室、アジア・ボランティア・ネットワーク・東海、地域と協同の研究センター　協力：生活協同組合コープあいち、補完的保護認定制度が始まりました　（神田すみれ：地域と協同の研究センター研究員）、情報クリップ、書籍紹介『市民協働によるまちづくり～東海から発信する「新しい市民社会」への途』向井清史編著
233 号 （1 月）	【巻頭】自立と協同、自治を語る　前澤このみさん（元みかわ市民生協理事）と八木憲一郎さん（元コープあいち副理事長）対談、愛知県新城市（やなマルシェ・JA 愛知東・コープあいち・新城市役所・社会福祉協議会等）と岐阜県飛騨市（飛騨市役所・JA ひだ・ばあちゃん食堂・コープぎふ等）との交流　報告、第２０回東海交流フォーラムにむけて「くらしたすけあいの会」より、現状と課題を伺いました（向井忍：尾張地域懇談会世話人・地域と協同の研究センター専務理事）、災害・紛争等人道的緊急時における国際的なガイドラインから学ぶ（神田すみれ：地域と協同の研究センター研究員）、情報クリップ、書籍紹介「なぜ人と人は支え合うのか　―「障害」から考える」
234 号 （2 月）	【巻頭】能登半島地震による広域避難者の支援にむけて（向井忍：地域と協同の研究センター専務理事・愛知県被災者支援センターセンター長補佐）、中嶋さんの畑見学会報告（三河地域懇談会）、ＪＡとの連携（橋本 直行：三重県生活協同組合連合会 事務局長）、あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワークの取り組みからの学び（神田すみれ：地域と協同の研究センター研究員）、情報クリップ、書籍紹介「人は愛するに足り、真心は信ずるに足る-アフガンとの約束」
235 号 （3 月）	【巻頭】第 20 回東海交流フォーラム「協同が生まれるまちづくり」報告、特定非営利活動法人地域と協同の研究センター役員選出に伴う立候補受付の公示、情報クリップ、書籍紹介「私労働小説ザ・シット・ジョブ」

「地域と協同の研究センター」としての発信力の強化と組織づくり

1．2023 年度の目標

2023 年度事業を通して、団体会員の組合員・職員・構成員や市民へ参加・入会をひろげます。

図書・定期刊行物等の情報の蓄積、オンライン等の環境整備をすすめます。

2030 年を見据えた地域と協同の研究センター事業の推進体制基盤（理事、事務局体制）の強化をすすめます。

2．2023 年度のまとめ

1）第 1 の柱から第 3 の柱の事業を通して、地域と協同の研究センターを広げました。

○　地域懇談会は各地域の特徴を活かし、それぞれの懇談への参加・つながりが広がりました。

○　総会記念シンポジウム、6 月の日本協同組合学会春季研究集会、9 月「協同組合のアイデンティティ」公開セミナーと 11 月「生協の役割から生協職員の課題を考える」公開セミナーで、地域と協同の研究センターを媒介にしたつながりを深め、広がりました。

○　愛知県内での協同組合間協同は「協同組合ネットあいち」への参加がひろがり、幹事組織同士の日常的な連携がすすみました。

○　会員有志による研究会は友愛協同セミナー、サードセクター研究会、多文化共生懇談会が継続実施され、研究と参加の輪が少しずつ広がっています。

○　「市民協働によるまちづくり～東海から発信する『新しい市民社会への途』」（向井清史編・著）は 12 月 5 日、三重県生活協同組合連合会・JA 経営研究会共催の協同組合役職員学習会で取り上げられ、研究センター常任理事・名古屋市立大学名誉教授向井清史氏の講演、研究センターとつながりのある「やなマルシェ（愛知県新城市）」加藤久美子氏の事例報告につながりました。

○　9 月から団体会員単位に会員一人ひとりと意見交換する懇談する場として、団体会員懇談会を実施。コープみえ、コープぎふと懇談が実施できました。コープあいちは 2024 年 6 月以降で予定。

○　図書・定期刊行物等の情報の蓄積は十分検討が出来ず 2024 年の課題に。オンライン等の環境整備は本山 4 階会議室の環境改善により前進しました。

※各々の詳細はこれまでの事業進捗を参照ください

2）これらの成果としての会員加入は次の通りです

2023 年度	個人正会員	団体正会員	個人賛助会員	団体賛助会員
期首	231	21	112	3
入会	5	0	2	0
退会	13	0	7	1
移動	-2	0	2	0
2024 年 3 月 20 日現在	221	21	109	2

3．2024 年度の目標

第 24 回通常総会では第 14 期（2024～2025 年度）の役員改選があります。新役員体制で、第 5 中期計画最終年度の事業活動をすすめ、2025 年からスタートする第 6 期中期計画（2025 年度～2028 年度）を準備します。

2030 年を見据えて理事会・事務局体制の補強・改革をすすめます。

＜補足：事務局員の業務委託内容一覧＞

事務局員（8 名）は月 1 回の事務局会議と研究センターNEWS 発送作業に参加し、理事会運営（年４）と公開セミナー運営をささえています。

各位の業務委託内容な概ね以下の通りです

井貝順子（居住地：岐阜県瑞浪市）
（１）岐阜地域懇談会
（２）研究センターNEWS 制作
（３）研究論文の把握・データベース化

伊藤小友美（居住地：愛知県大府市）
（１）三河地域懇談会
（２）共同購入事業マイスターコース
（３）組合員理事ゼミナール
（４）協同の未来塾

大島三津夫（愛知県犬山市）
（１）研究センターNEWS 制作

神田すみれ（愛知県瀬戸市）
（１）調査研究テーマ：多文化共生と協同組合
（２）研究センター収蔵図書のデータベース化

熊﨑辰広（岐阜県岐阜市）
（１）研究フォーラム地域福祉をささえる市民協同
（２）岐阜地域懇談会
（３）農業、医療領域に関する調査と情報発信

堤　英祐（名古屋市名東区）
（１）調査研究テーマ：食と農
（２）研究フォーラム食と農への情報提供
（３）研究フォーラム環境への情報提供

野田幸男（居住地：名古屋市守山区）
（１）会計管理
（２）会員管理
（３）金城学院大学協同組合論

水谷光由（岐阜県海津市）
（１）共同購入事業マイスターコース
（２）組合員理事ゼミナール
（３）協同の未来塾

第 24 回通常総会議案書【第 2 分冊】

総会開催日　　2024 年 5 月 18 日

発　行　日　　2024 年 5 月 2 日

発行所（者）　特定非営利活動法人
地域と協同の研究センター
代表理事　鈴木　稔彦